

1 漢字に対する興味や関心を高めるために、具体的な物や絵と漢字の字形を結び付けた指導について（2年）

【板書事項】



【指導の流れ】

- 1 漢字を板書し、読み方を教える。
「これ(回)は『かい』と読みます。
『まわ(る)』とも読みます。」
- 2 象形文字であることを伝え、基となった絵を想像させる。
「これは、回る様子からできた漢字です。どのような様子からできたと思いますか。」
C「校庭など、回って走るところです。」
C「答え合わせの丸付けの丸です。」
- 3 「指をぐるぐる回す形です。」
「字のでき方を教える。」
「回は水が回っている様子からできた漢字です。(掲示資料提示)この絵のどこから回ができたと思いますか。」
C「水がうずになっているところ。」
- 4 空書きをし、書き取り練習をする。
「回は六画です。空書きをします。指を出しましょう(空書き)。(ノートに練習しましょう)。」

【留意点】

- 1 筆順を意識させるために、ゆっくりと大きく書く。
- 2 象形文字は、漢字の形から基となった絵を考えさせる。基となった絵から漢字を考えさせると、児童独自の文字が多く出されて、『回』にまとめるのが難しくなる。
自由に想像させ、児童一人一人の考えを認める。それぞれがどのような理由で基になった絵を考えているかを共有させ、絵と漢字の意味のつながりを意識させる。
- 1 児童が発想したものを、正解・不正解といった観点でとらえさせないようにする。それぞれの発想が漢字の意味と関連している点から認める。
- 4 「一、二、三」と一画ごとに数を数えながら空書きさせる。
空書きで書けるようになってからノートに練習させる。その際、「一回」「二回」「回る」など、熟語や送り仮名のある形で練習させる。